

## 【戸塚区】令和6年第2回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和6年 6月 11日 15時00分 ～ 16時 20分
場 所	戸塚区総合庁舎9階特別会議室
出席者	<p>【座長】坂本勝司議員</p> <p>【議員：5名】鈴木太郎議員、山浦英太議員、伏見幸枝議員 中島光徳議員、大和田あきお議員</p> <p>【戸塚区：23名】近藤武区長、増田政博副区長、 内田沢子福祉保健センター長、緑川斉福祉保健センター担当部長、 白井一彦土木事務所長、河野宏紀戸塚消防署長（災害対策担当部長） ほか関係職員</p>
議 題	令和6年度 個性ある区づくり推進費 戸塚区予算執行計画等
発言の 要 旨	<p>大和田議員：戸塚区の道路は狭あいや急坂の問題があり、過去には死亡事故も発生している。具体的な場所は後日お伝えするが、対応の検討をお願いしたい。</p> <p>白井土木事務所長：死亡事故が起こった場合は戸塚警察署と立ち合いを行って対策を取るようにしている。狭あい道路の対応については、建築局予算の狭あい道路拡幅整備事業として土木事務所が対応を行っている。</p> <p>大和田議員：死亡事故のところは民地が含まれる。民地の所有者も協力するという話があったので市としても検討をお願いしたい。</p> <p>続いて、保育士への研修について、普段の勤務時間内では出席が出来ず、土日や時間外では負担が大きい状況がある。保育士人材育成のため、より参加しやすいよう研修実施方法についても検討してほしい。また、人材確保、待遇改善も含めて検討をお願いしたい。</p> <p>次に、児童虐待での助成金の制度について、認定に時間が掛かっている現場としては困っているという声があるので検討をお願いしたい。</p>

舗こども家庭支援課長：児童虐待はかなりセンシティブな問題であり、事実確認はお子様への聞き取りも含めて丁寧に行っているため時間がかかる。早急に対応するよう努めていきたい。

また、保育士の人材育成に向けては、集合形式の研修だけでなく色々な形で参加しやすい研修の方法を考えていきたい。

伏見議員：子育て応援事業のひよこ会など、会場ではお母さんたちがタオルなどを敷いて乳幼児を寝かせているが、床が地べたで硬いのでクッションなどの用意はないのか。

舗こども家庭支援課長：そのような意見を昨年度からいただいている。19会場あり様々な状況があるなか調整はしている。物の置き場などの課題があり進んでいないが、認識はしている。

伏見議員：庁舎3階のとことこ横に設置している自動販売機の液体ミルクの容器は手で切って哺乳瓶に入れられるタイプのものか。

舗こども家庭支援課長：手で開けられるタイプのものである。他にも色々なタイプがあるので、今後保護者の方の意見も伺っていきたい。

伏見議員：スポーツ・レクリエーション振興事業について、オリンピック、パラリンピックが開催されるが盛り上がっていない。戸塚区出身またはゆかりのある選手を区民に知ってもらう取組を教えてほしい。

竹内地域振興課長：セーリングの飯東潮吹選手が日本代表に決まったという情報があり、Xやホームページ、デジタルサイネージ等で応援していきたい。また、他の選手も情報が入り次第、応援していきたい。

伏見議員：美化推進事業の小型生ごみ処理器「ミニ・キエーロ」講習会について、内容や回数など、昨年度と取組がどう変わったのか教えてほしい。また、小学生の夏休み体験教室ではアンケートはとっているか。

志田資源化推進担当課長：昨年度も4回開催をしていて、内容も昨年度と同様に行う。小学生向け夏休み体験教室は、親子で参加できるような形で

開催しており、アンケートもとっている。

伏見議員：ごみの削減になる大変素晴らしい取組だと思っているので、その効果や様子がわかるよう広報でも取り上げてもらいたい。

近藤区長：ミニ・キュー口講習会は年4回、5月、7月、9月、10月に開催をしている。7月が小学生向けの夏休み体験教室、10月は環境事業推進委員と消費生活推進委員を対象に実施をしているが、その効果や様子についても広報していきたい。

伏見議員：とつか花できれいなまちづくり事業について、夏の猛暑に強い花の品種をとり入れてほしい。

白井土木事務所長：今いただいたご意見を踏まえ、夏に強い花など品種も含めて、地域の方と相談して進めていきたい。

中島議員：「災害に強いまちとつか」に向けた防災・減災強化事業について、デジタルサイネージで情報を発信する取組は非常に良いことだが、何を発信していくのが重要。また、今年度、感震ブレーカー補助金の予算が拡充され、市全体で先着6千世帯が対象となっているが、そのなかで戸塚区がどれだけ設置できるかが、非常に重要なのでしっかりと広報してほしい。

藤咲総務課長：能登半島地震を踏まえ、命を守る取組の重要性を認識している。補助制度予算の拡充について、区連会を通じて、地域や自治会に局と連携して周知をさせていただいている。あわせて、区の地域連携チームを通じて制度の活用を促していきたい。また、路線バスのサイネージなども活用し、命を守る行動と取組について局ともしっかりと連携し区民に伝えていきたい。

中島議員：マンション防災に関しては、市のなかでも戸塚をモデルに横展開がされていると思っている。今年度、マンションと拠点の連携訓練はどれくらいの件数を行うのか教えてほしい。

藤咲総務課長：具体的な目標件数は持ち合わせていないが、秋の防災拠点の訓練に合わせて、マンションの方にも積極的に働きかけをしていきたい。

中島議員：1件でも多くこの連携訓練が進むようお願いしたい。  
また、浸水対策として下水道管内の水位計などを戸塚駅に設置する件について、具体的な情報があれば教えてほしい。

藤咲総務課長：設置箇所数は戸塚駅東口2か所、西口2か所の合計4か所。  
詳細な場所は今後確認をしていく。

中島議員：設置されてから広報することも大事だが、設置を進めていることの広報もしてもらいたい。また、QRコードやホームページのリンク先で雨水情報を確認できる仕組みについてもしっかりと広報をお願いしたい。

藤咲総務課長：局とも相談をしながら検討していきたい。

中島議員：高齢化に伴い、地域にベンチを設置してほしいという声がある。  
昨年度、踊場地区の民地にベンチを設置し、この事例を横展開してほしいと要望したがその後の進展はどうか。

山内区政推進課長：踊場地区のベンチは地区別ハートプランの中で、誰にも優しいみちづくりの取組の一環として実施し、地域福祉保健計画など区と地域で策定されたプランに基づく身近な施設整備に対して、都市整備局の補助金を活用して設置した。横展開については令和8年度にハートプラン改定が控えているが、ほかの地域でも必要なベンチなどにおいて、同様の取組を進めていければと思っている。

中島議員：戸塚区出身のサッカーの遠藤航選手がオーバーエイジ枠での選出がほぼ決定している。正式に決定したらぜひ広報してほしい。また、オリンピックに出る人に限らず活躍している戸塚区にゆかりのある選手の情報は発信してもらいたい。応援の仕方も、パブリックビューイングなどいろいろあるので、盛り上がるやり方を検討してほしい。

近藤区長：戸塚区が応援することで選手たちの励みになればと思っている。選手たちの了解が得られれば全面的に応援していきたい。

山浦議員：自力避難が困難な障害者、高齢者の方のための災害時要援護者名簿が現在どのように活用されているか。また、個別避難計画の進捗状況を教えてほしい。

小栗高齢・障害支援課長：戸塚区では名簿の提供に関する協定を締結した自主防災組織等の団体が48団体あり、災害時要援護者へ同意確認をし、地域への名簿提供を拒否された方以外の名簿を協定締結団体にお渡しして活用いただいている。担い手は自治会町内会、民生委員の方などで、日頃の見守り等に活用してもらっている。個別避難計画については健康福祉局と情報共有をしながら、対象となる方のなかで優先度が高い方から順番に、ケアマネジャーなど日頃福祉関係で支援をいただいている方にお話し、計画を立てていただいている。3月末時点では希望を出した方の約1割が計画作成完了、もしくは作成途中という状況である。

山浦議員：法律が改正され、共同親権が2026年度施行される。私としては、2026年を待つことなく、子供に寄り添った一層の推進をすべきだと市会本会議の中で市長に伝えているが、区としての見解を教えてほしい。

舗こども家庭支援課長：共同親権については両親と子供それぞれの気持ちもあるなか、子供の人権という視点も重要で、大変難しい問題であると認識している。窓口では丁寧にお話しを聞きながら対応したい。一方、現実問題として、離婚や共同親権は弁護士や法律が関わってくるので直接の支援は難しい。区としては夫婦の信頼関係の構築につながる内容を両親教室などで取り入れることを検討したい。

山浦議員：男女共同参画の性別役割分担意識に関する相談について、女性の相談を受けやすい体制はできているが、男性が相談しやすい体制が今できてない。男性の相談件数が分かれば教えてほしい。

近藤区長：調べて後日お伝えする。

鈴木議員：マンション防災について、マンションと地域防災拠点間の情報連携のフォーマット化の進捗状況を確認したい。また、罹災証明の発行はマンション1棟毎か各戸別なのか自治体によって違いがあるので確認したい。

藤咲総務課長：地域防災拠点とマンション側との情報共有のフォーマット化については、昨年の秋にマンションの方々を対象に情報交換会を実施した。その中で、1つのテーマとしてマンション側でどのような情報が欲しいのか、またはどのような情報を発信できるのかなどをグループワークで行っている。その結果を用いて、どのようにフォーマット化をするかを引き続き検討したい。また、罹災証明については1棟単位で発行できることを局に確認した。

鈴木議員：例えば80戸あるマンションのうち1戸でも罹災証明の申請があれば全戸に向けて発行できるのか。

藤咲総務課長：改めて確認し報告する。

鈴木議員：罹災証明は区長が行うもの。そこがはっきりしないと対応ができないので早急に対応をお願いしたい。

近藤区長：罹災証明は義援金にも繋がるものであり、区の権限として出す重要なものと認識しているので、早急に局へ確認する。

坂本議員：広報PR媒体として、デジタルサイネージ等の活用とのことだが、駅に面した区役所壁面を活用したPRポイントを設置できないか。

山内区政推進課長：区総合庁舎の壁面や柱面に加え、多くの方が行き来する商業施設に区政情報を発信するポイントとして、QRコードを貼っている。また、駅だけでなく東戸塚の商業施設等でもPRボックスとして、区の広報紙を置くなどの取り組みを行っている。

坂本議員：DXやデジタル社会といわれる時代に、横断幕というのは視覚的にもったいないと感じる。予算がかかる話なので難しいかもしれないが

積極的に検討してもらいたい。

ベンチの設置について、戸塚大踏切のデッキ部分は幅員が十分にあると思うが、真ん中に両側を向くようにベンチを設置することはできないのか。

白井土木事務所長：道路管理者自らが設置するのは難しいが、道路局などと協議をしながら検討していきたい。

坂本議員：燃料電池車の活用方法は区民まつりだけか。地域の夏祭りや他の自治会で活用したいというのは可能か。

山内区政推進課長：昨年度後半から導入したので、実績としては区民まつりでの電力供給の実演だけである。また、公用車として活用しているので、二酸化炭素排出削減にもつながっている。地域で活用したい場合には相談いただきたい。

坂本議員：ウナシーに子供が生まれてミニウナシーなど、設定を変えたりしてもっとPRできないか。

竹内地域振興課長：ウナシーのデザイン変更などには制約があり、新たな設定を付け加えるのは現状では難しい。

近藤区長：ウナシーに関しては、「ウナシーの6つのいろのヒミツ」という絵本を作成し、区内小学校1年生に配布している。ウナシーを通じて、戸塚区の名所、名産品等を知ってもらい愛着を持ってもらえるようPRしていきたい。

坂本議員：救急車の緊急走行について、車両の気密性が高くサイレンが聞こえづらいと思うが改善策はあるか。また、サイレンが聞こえなかったことによる接触事故は発生しているか。

河野戸塚消防署長：救急車の赤色灯やサイレンには規定があり、それに従って装備している。気密性の高まりや車内で音楽を聴いているとサイレンが聞こえづらいことも認識しているので、交差点では一時停止するなどし

	<p>て事故を予防している。今のところ接触事故はおきていない。</p> <p>大和田議員：地域防災拠点に関して、戸塚区内の小中学校で、空調やWi-Fiなどの整備はどれぐらい進んでいるのか。また、福祉避難所の戸塚区の対応についてはどうか。</p> <p>藤咲総務課長：空調、Wi-Fiの状況は、調べて後日回答する。</p> <p>高齢者等要援護者については、基本は在宅避難をお願いしたい。自宅での避難生活が困難な場合は、保健師等による状況の確認を踏まえた上で優先度の高い方から福祉避難所に避難をしていただくことになる。</p> <p>大和田議員：福祉避難所は、乳幼児や妊産婦の方も含まれる。市の担当とも話したが、特に体制づくりを急いでもらいたい。</p>
備 考	